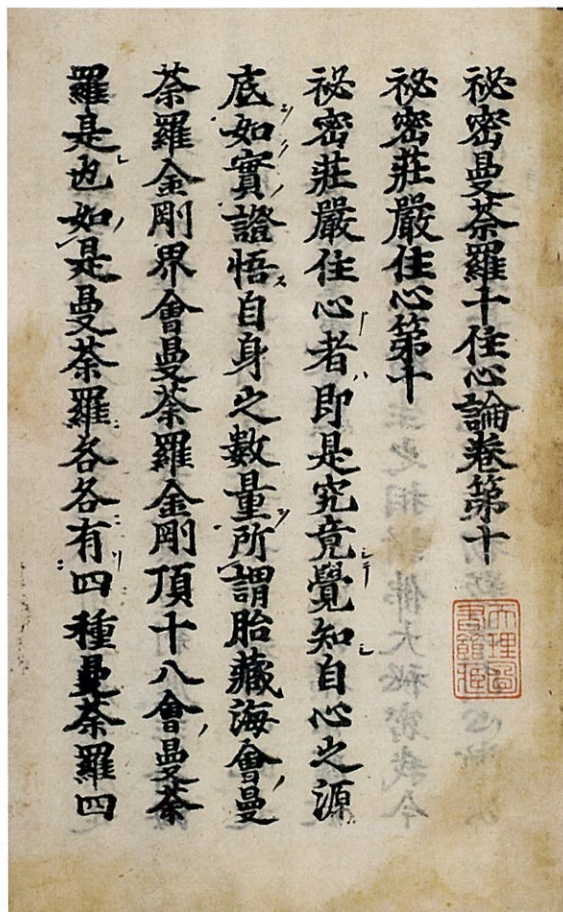


# やまとの名品 天理図書館



ひみつまんだらじゅうしんろん こうやぼん  
秘密曼荼羅十住心論 高野版

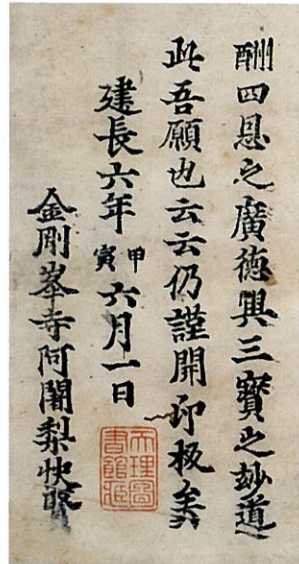
空海著 10卷10冊  
建長7年(1255)刊  
縦25cm 横15.3cm

天長七年（八三〇）ごろ、淳和天皇の勅令により弘法大師空海が真言密教の教義を述べた書。仏の悟りの境地をいまだ悟っていない者にとつては秘密である（秘密曼荼羅）とし、人間の宗教意識を(1)異生羝羊住心（自我に囚われたままの段階）、(2)愚童持斎住心（道徳により善の心が目覚めた段階）、(3)嬰童無畏住心（戒めを守り、来世の安樂を願う段階）、(4)唯蘊無我住心（万物は実体がなく仮の姿と知る段階）、(5)拔業因種住心（全てが因縁からなると悟る段階）、(6)他縁大乘住心（慈悲の心で他者を救おうとする段階）、(7)覺心不生住心（この世は空と悟る

段階）、(8)一道無為住心（人の心は清浄で、真実世界の心と同じだと知る段階）、(9)極無自性住心（自己の心が仏と同一と知る段階。まだ完全なる悟りではないと説く）、(10)秘密莊嚴住心（自己の心と仏と万物の心が一体になる真理の段階）の十段階に分けている。空海は極無自性住心までを既存宗派の世界とし、秘密莊嚴住心が真言密教の世界であるとした。平安時代の仏教各宗派を批判もしているの、後に天台宗、

浄土宗、日蓮宗、華嚴宗の各宗から批判の著作が多く出された。開版者の快賢は高野山金剛峯寺の僧で、真言宗関係の書籍、いわゆる高野版出版に貢献した。高野版は表と裏両面に胡粉を敷いて両面を刷り、紙を二つ折りにし、折り目の外側に糊をつけて装幀する粘葉装である。高野版独自の特徴となっている。

（天理図書館 西林 淳）



（第10巻 奥書）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
 ◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
 ○12月の休館日：22日・23日 年末年始：12月27日～1月6日  
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）